

2016年3月3日 木曜日

○ 意見交換会

ホテル椿館に場所を移して意見交換会が開催されました。松山市長にもご挨拶いただきました。



○ ナイトセッション1

八槇氏、満永氏による「皆の力でセキュリティ人材育成に弾みをつけよう」では高度専門家を育てる方法について各分野における事例が紹介されました。



大学でのトップ人材育成のための取り組みとして T-CIRP 養成プロジェクトの設立案が説明されました。これに対し会場の学生さんから興味を持ってもらうための教育が重要ではないかという意見がありました。高度専門家の方が経験をつんだ過程を振り返ると、入社した当時はお客様が望むセキュリティに関するいろいろな仕事を現場で学んできたそうです。今であれば、会社が人に投資をして、横断的にセキュリティ技術を学ぶことで人材が育つのではないかということでした。また、

SIer からの事例としてある企業の取り組みが紹介され、セキュリティ専門家だけを育てるだけでなく人を繋げるコミュニティを構築すると、育った人材が勝手に周りを育てる環境ができたという報告がありました。そのほか、韓国での事情、セキュリティベンダー、CSIRT などからの紹介がありました。事例を持ち帰って参考にしてほしいということでまとめられました。

○ ナイトセッション2

piyokango 氏、直井信次郎氏によるナイトセッション「なあおい、サイバー攻撃を一緒にかたろうんご～先の見えないサイバー攻撃に関する、終わりの見えない話～」では、今と今後のサイバー攻撃を様々な業界の人とみんなと一緒に考えました。司会の piyokango 氏は最初に、twitter の使い方など情報収集の方法を紹介し、収集した情報の解析など情報の取り扱いについて熱く議論を交わしました。その後 2015 年に起きた事象、例として GNU C ライブラリ、Adobe Flash Player の脆弱性や日本年金機構へのサイバー攻撃に関して様々な業界の参加者とともに振り返りました。また、グーグルマップ改ざんやウクライナで起きた停電など自己顕示目的の悪戯・犯罪行為に関しても意見が交わされました。最後に人の命に関わるサイバー攻撃が登場する危険性を指摘し、潜在的に残っていそうな脅威を議論しました。

○ ナイトセッション3

「CSIRT のススメ ～作ってさてどうしましょう」 福田かおり氏、杉浦芳樹氏



まずはお酒が入った楽しい雰囲気での自己紹介を行い、杉浦氏の CSIRT の説明から会場こみで議論が始まりました。

日本の各地で CSIRT 活動が活性化していますが、中部、関西、九州での活動が広がっている CSIRT がうまくいかない理由として、現場の人はめんどくさがっている、やらされている、なにをしていいのかわからない、他の業務を抱えている、経営層は下によろしくと言った感じで投げっぱなし、IT/セキュリティ関係部門では CSIRT は形だけでルール作りと勘

違いコスト面ではいくらかかるかわかっていないなどを挙げそのような人たちが CSIRT を行えるのかと疑問を投げかけました。続けて福田氏は D-SIRT という自らの活動について説明しました。

D-SIRT 設立をして2年目で良かったこととして情報の量、質が上がったこと、対策の優先付けができるようになったこと、社内認知度が上がったことを挙げ、認められてきていることに喜びの心境を述べられました。困ったこととしては、多すぎる情報（専門的な知識を要する脆弱性の情報など）を挙げ、杉浦氏が情報を集め適切に処理し必要なものを渡すことが大事であると述べられました。また、セキュリティ対策の考え方として、自分からやってみる（現状が見える）、段階を踏んでレベルアップ、最小の人・システム費用で最大の効果を挙げセキュリティ対策に特効薬はないことを話し、基本的なセキュリティ対策（OS のバージョンアップなど）が大切なことを示すことも CSIRT の仕事であると述べられました。他の困ったこととして、なんでも相談室になってきていることに苦労しているが、間口が広いゆえに頼られる存在になっているし、頼られるように「ありがとう」や「大丈夫だよ」という声掛けが大切だという話がありました。

最後に今後の課題として継続したセキュリティ人材確保が必要であること、中小企業でのセキュリティ対策をすべきで企業内に窓口担当を作ることを述べ締めくくられました。